

**調布市家庭系ごみ等詳細組成分析調査及び  
事業系可燃ごみ詳細組成分析調査（令和 5 年度）について**

## 1. 詳細組成分析調査の概要

ごみの中身を詳しく調べるため、詳細組成分析調査を以下のとおり実施しました。

### (1) 家庭系ごみ等詳細組成分析調査

戸建て住宅地区、集合住宅地区、住商混合地区から各 2 ヶ所ずつ家庭系ごみをサンプリングし、組成を分析しました。（住商混合地区では一部事業系ごみも含まれます）

- 対象ごみ：燃やせるごみ、燃やせないごみ、容器包装プラスチック
- 対象地区：市内 6 地区からサンプリング
- 調査月：令和 5 年 9 月

### (2) 事業系可燃ごみ詳細組成分析調査

令和 5 年度調査では、上記の家庭系ごみに加え、事業所から直接可燃ごみをサンプリングし、組成を分析しました。

- 対象ごみ：事業系可燃ごみ
- 対象事業所：飲食系をメインとする事業所（飲食系メイン）、オフィス系をメインとする事業所（オフィス系メイン）からそれぞれサンプリング
- 調査月：令和 5 年 9 月

## 2. 家庭系ごみ等詳細組成分析調査の結果

全体の調査結果は下表のとおりです。

表1 令和5年度組成分析調査結果（家庭系ごみ等）

大分類	中分類	小分類	燃やせるごみ	燃やせないごみ	容器包装プラスチック	
可燃物	食品ロス	食べ残し	9.1%	—	0.3%	
		未利用食品(直接廃棄)	6.1%	—	1.3%	
	調理くず		28.2%	—	0.6%	
	その他可燃物	紙おむつ類		0.9%	—	—
		リサイクルできない紙類		20.9%	0.2%	0.6%
		布類(リサイクル不可能品)		2.6%	2.9%	0.3%
		草木類		4.6%	1.9%	0.1%
		ゴム・皮革類		1.5%	5.1%	0.8%
	その他可燃物		2.5%	2.3%	0.8%	
可燃物小計			<b>76.4%</b>	<b>12.5%</b>	<b>4.9%</b>	
不燃物	容器包装非対象プラスチック		2.9%	30.8%	8.4%	
	金属類		0.2%	20.9%	0.4%	
	小型家電類		0.0%	10.8%	0.0%	
	その他不燃物	紙パック(アルミ付)	0.4%	0.0%	0.1%	
		その他不燃物	—	14.7%	0.3%	
不燃物小計			<b>3.7%</b>	<b>77.1%</b>	<b>9.2%</b>	
資源物	古紙	包装紙・紙袋・紙箱	3.6%	0.6%	0.8%	
		その他雑がみ	2.5%	0.1%	0.1%	
		その他古紙	3.1%	0.3%	0.2%	
	布類		0.5%	0.1%	—	
	びん		0.0%	0.7%	0.1%	
	カン		0.1%	1.5%	0.1%	
	ペットボトル		0.1%	0.1%	1.9%	
資源物小計			<b>9.9%</b>	<b>3.3%</b>	<b>3.1%</b>	
容器包装プラスチック	フィルム・袋類		6.6%	1.1%	34.0%	
	レジ袋		0.9%	0.1%	2.7%	
	食品トレイ		0.1%	0.0%	3.7%	
	パック・カップ		0.9%	0.1%	27.2%	
	その他ボトル		0.2%	1.5%	7.0%	
	発泡緩衝材類		0.0%	0.0%	0.7%	
	その他容器包装プラスチック		0.4%	3.0%	7.2%	
	容器包装プラスチック小計			<b>9.1%</b>	<b>5.9%</b>	<b>82.5%</b>
有害物			0.0%	0.4%	0.1%	
収集不適物(土・砂)			0.1%	0.0%	—	
指定ごみ袋			0.8%	0.7%	0.2%	
合計			<b>100%</b>	<b>100%</b>	<b>100%</b>	

(注)一部、住商混合地区の事業系ごみを含みます。

構成比(%)の合算値は四捨五入の関係上、100%にならないことがあります。

表中の「0.0」は表示されている桁数より小さい値がある場合を表しています。

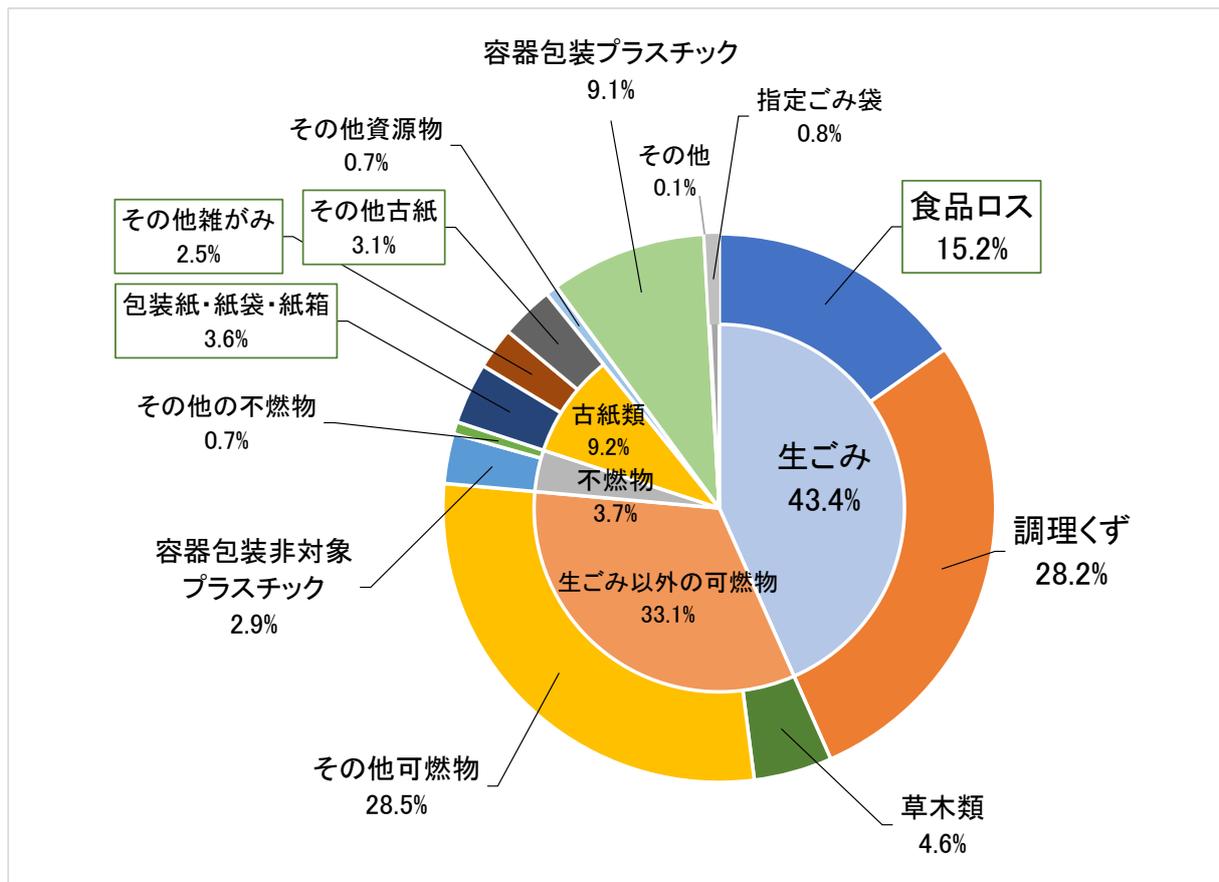
表中の「—」は全く排出されていなかったことを表しています。

正しい分類

### (1) 燃やせるごみ（可燃ごみ）

- 燃やせるごみとして正しく分別されている割合は 77.2%（指定ごみ袋を含む）でした。
- 品目別には「生ごみ」が 43.4%と最も多く、その中で食べ残しや未利用食品といった「食品ロス」が 15.2%となっています。
- 資源化可能な古紙類の割合は 9.2%です。その内、雑がみ類は 6.1%でした（「包装紙・紙袋・紙箱」3.6%と「その他雑がみ」2.5%の合計）。

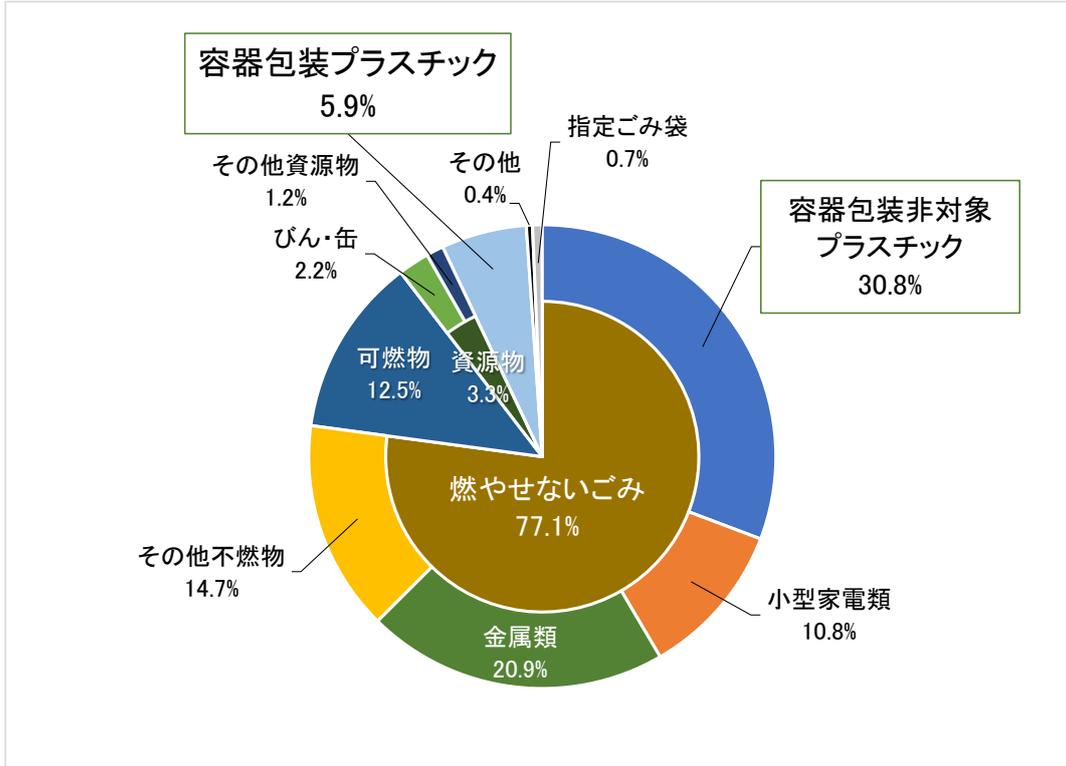
図 1 燃やせるごみの組成



### (2) 燃やせないごみ（不燃ごみ）

- 燃やせないごみとして正しく分別されている割合は 77.8%でした。
- 分別が正しくないものの 22.2%の内、最も多いのは「容器包装プラスチック」で 5.9%でした。
- また、正しく分別排出されているものの中で最も多いのは「容器包装非対象プラスチック」（製品プラスチック）で、30.8%でした。

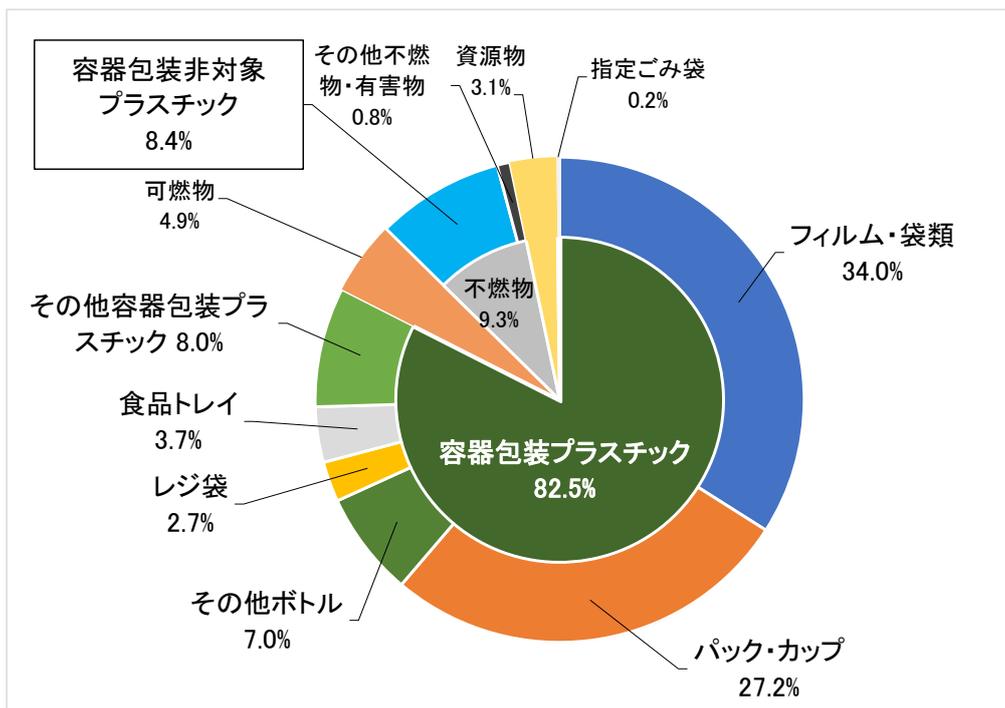
図2 燃やせないごみの組成



(3) 容器包装プラスチック

- 容器包装プラスチックとして正しく分別されているものの割合は 82.7% でした（指定ごみ袋を含む）。
- 分別が正しくないものの 17.3%の内、最も多いのは「容器包装非対象プラスチック」（製品プラスチック）で 8.4% でした。

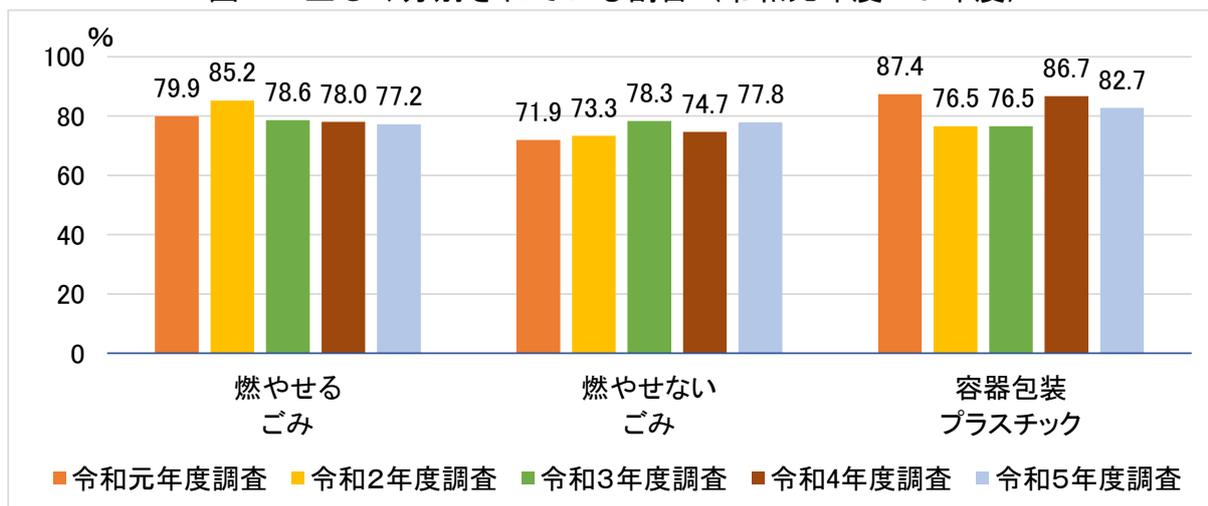
図3 容器包装プラスチックの組成



### 3. 過去の調査との比較

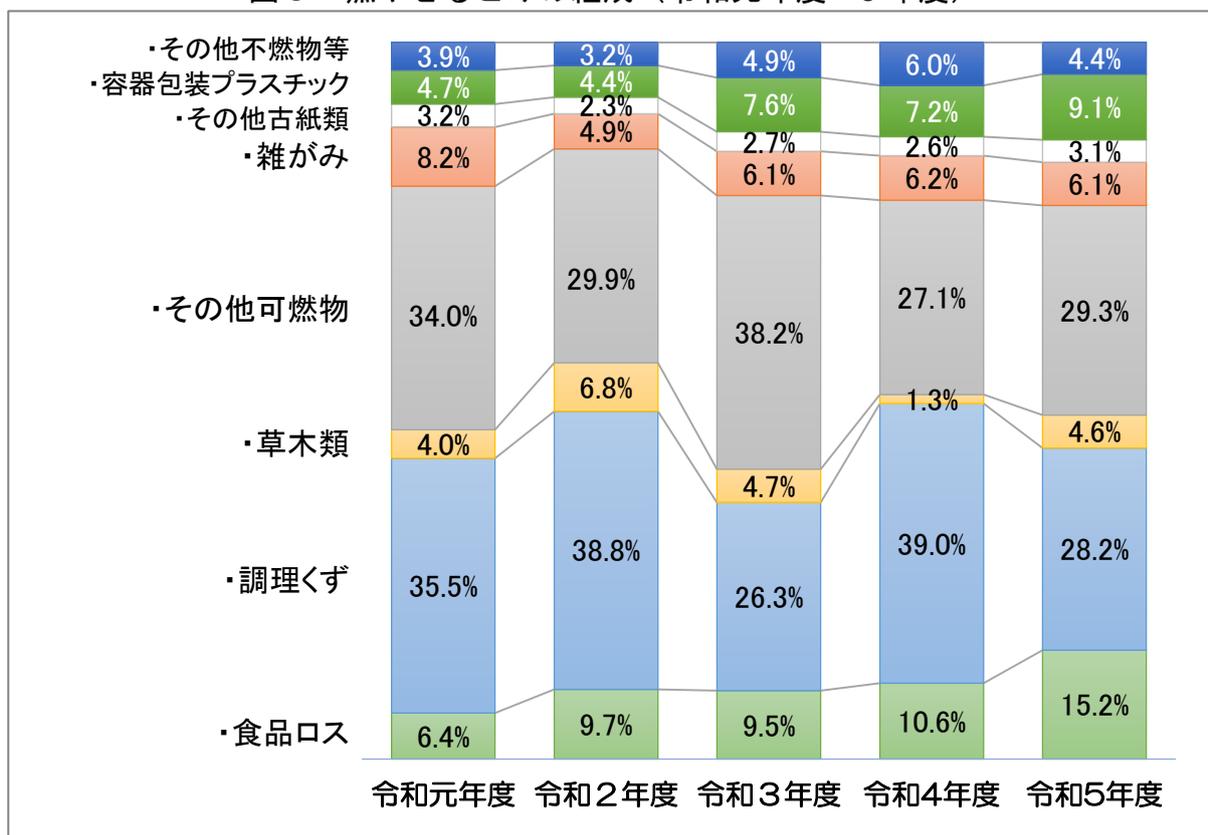
- 正しく分別されている割合は、前年度と比べ燃やせるごみはほぼ横ばい、燃やせないごみはやや上昇しました。容器包装プラスチックは、前年度より4ポイント低下しています。

図4 正しく分別されている割合（令和元年度～5年度）



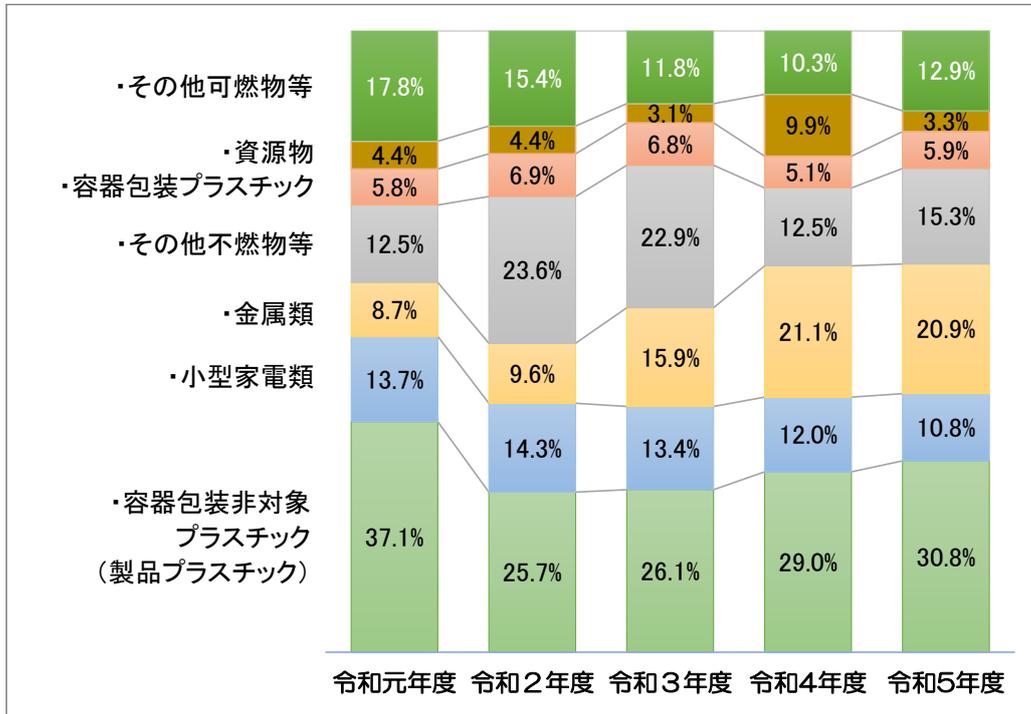
- 今年度の燃やせるごみの組成は、「調理くず」の比率が下がった一方で「食品ロス」比率は増加傾向が続き15.2%となっています。また、「容器包装プラスチック」比率も増加傾向にあり、今年度は9.1%となっています。

図5 燃やせるごみの組成（令和元年度～5年度）



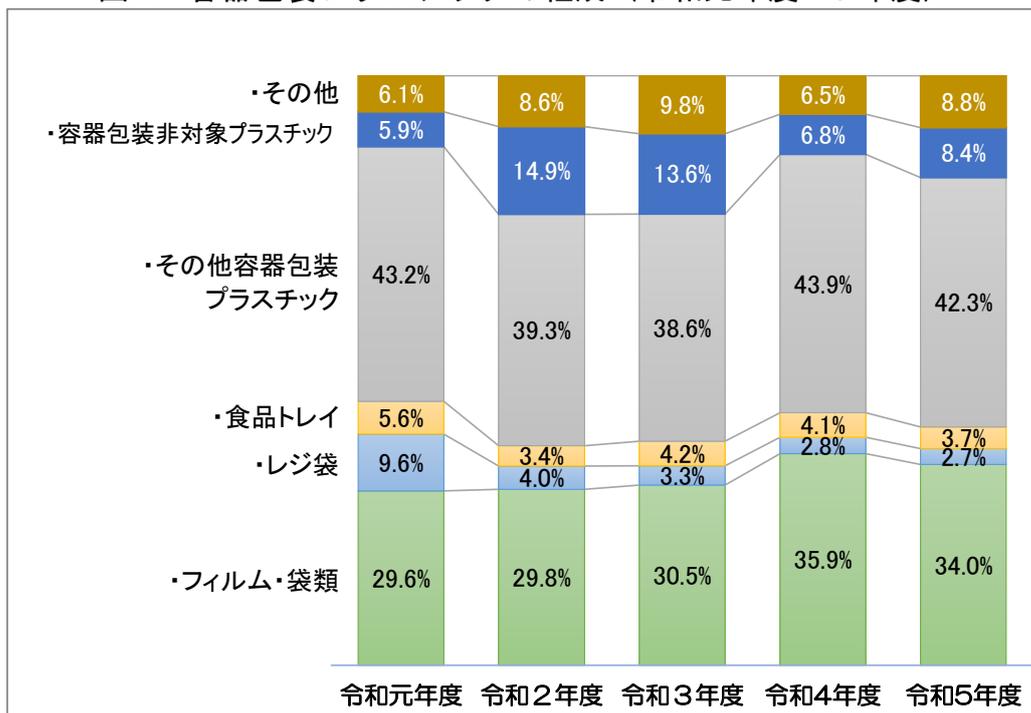
- 燃やせないごみの組成は、可燃物の混入が前年度よりやや増えたものの、資源物の混入は一昨年度以前の水準に戻っています。

図6 燃やせないごみの組成（令和元年度～5年度）



- 容器包装プラスチックの組成は、容器包装非対象プラスチック（製品プラスチック）や可燃物その他の混入割合が前年度比でやや増加し、分別遵守率（正しく分別している割合）の低下に繋がりました。

図7 容器包装プラスチックの組成（令和元年度～5年度）



#### 4. 事業系可燃ごみ詳細組成分析調査の結果

全体の調査結果は下表のとおりです。

なお、事業系ごみは業種によっても規模によっても排出される物が大きく異なるため、下表は調布市の事業系ごみ組成を代表するものではなく、飲食系、オフィス系それぞれの傾向を示すものであることに留意が必要です。

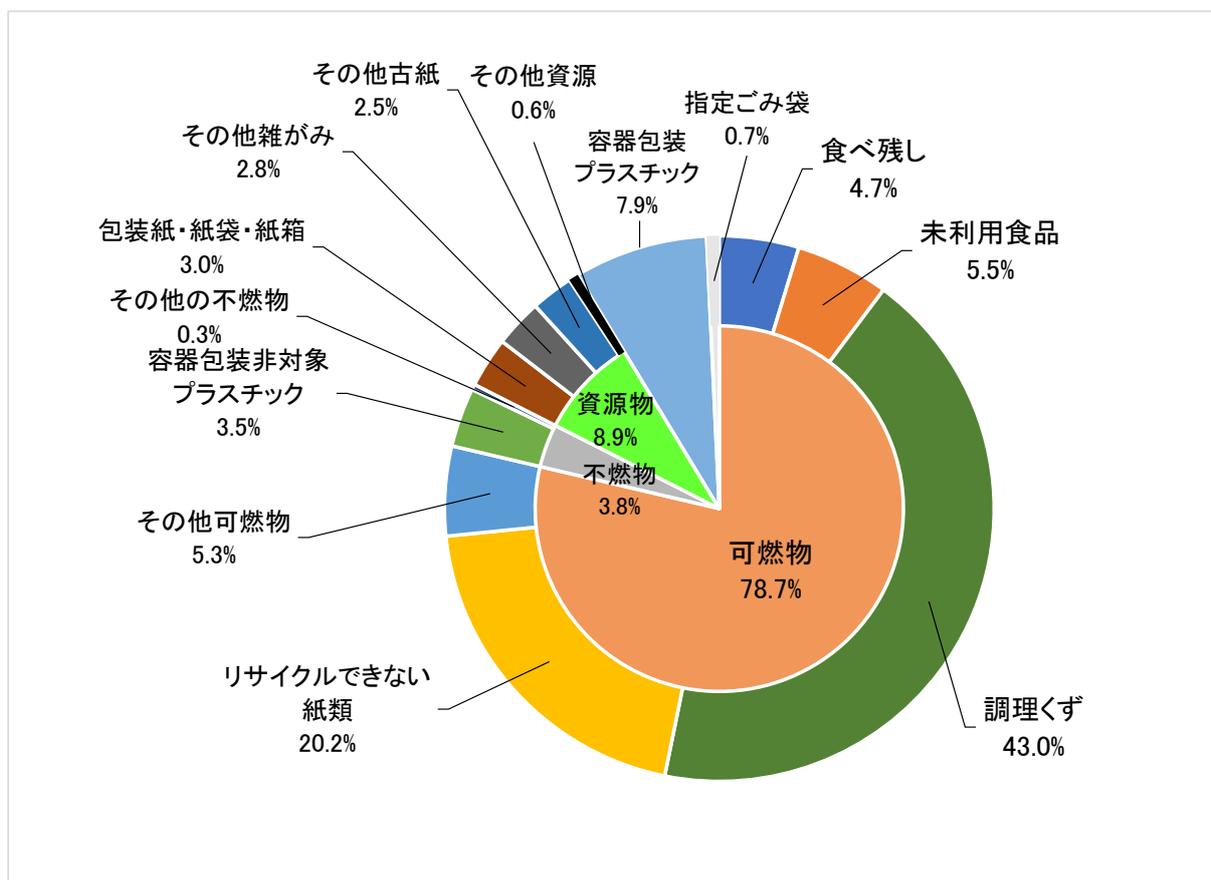
表2 令和5年度組成分析調査結果（事業系可燃ごみ）

大分類	中分類	小分類	飲食系メイン	オフィス系メイン
可燃物	食品ロス	食べ残し	4.7%	0.3%
		未利用食品(直接廃棄)	5.5%	0.1%
	調理くず		43.0%	1.6%
	その他可燃物	リサイクルできない紙類	20.2%	26.4%
		布類(リサイクル不可能品)	0.9%	0.3%
		草木類	2.0%	0.8%
		ゴム・皮革類	0.1%	0.3%
	その他可燃物		2.3%	1.8%
可燃物小計			<b>78.7%</b>	<b>31.6%</b>
不燃物	容器包装非対象プラスチック		3.5%	2.1%
	その他不燃物		0.3%	0.3%
	不燃物小計		<b>3.8%</b>	<b>2.4%</b>
資源物	古紙	新聞・チラシ	1.5%	1.0%
		雑誌・書籍	0.1%	1.2%
		段ボール	0.8%	1.9%
		紙パック(アルミ無し)	0.1%	0.5%
		包装紙・紙袋・紙箱	3.0%	10.5%
		シュレッダー紙	—	16.9%
	その他雑がみ	2.8%	31.0%	
	布類		—	—
	びん		—	—
	カン		0.1%	—
	ペットボトル		0.4%	0.1%
資源物小計			<b>8.9%</b>	<b>63.2%</b>
容器包装プラスチック	フィルム・袋類		5.5%	1.3%
	レジ袋		0.5%	0.8%
	食品トレイ		0.1%	0.0%
	パック・カップ		1.1%	0.2%
	その他ボトル		0.1%	0.0%
	その他容器包装	発泡緩衝材類	0.0%	0.0%
		その他容器包装プラスチック	0.5%	0.4%
容器包装プラスチック小計			<b>7.9%</b>	<b>2.9%</b>
有害物			0.0%	—
収集不適物(土・砂)			—	—
指定ごみ袋			0.7%	—
合計			<b>100%</b>	<b>100%</b>

### (1) 「飲食系メイン」の可燃ごみ組成

- 飲食系メインの事業所では、生ごみが 53.2%と半分以上を占めていました。その内訳は、「食べ残し」4.7%、「未利用食品」5.5%、「調理くず」43.0%です。食べ残しと未利用食品を合わせた食品ロス（食品ロス）の比率は 10.2%となっています。
- 可燃ごみとして正しく分別されている割合は 79.4%（指定ごみ袋を含む）であり、家庭系燃やせるごみとほぼ同等の水準となっています。
- 正しく排出されていないもの 20.6%の内訳は、「容器包装プラスチック」7.9%、雑がみを中心とする資源物 8.9%、容器包装非対象プラスチック（製品プラスチック）を中心とする不燃物 3.8%です。

図 8 可燃ごみ組成（飲食系メイン）

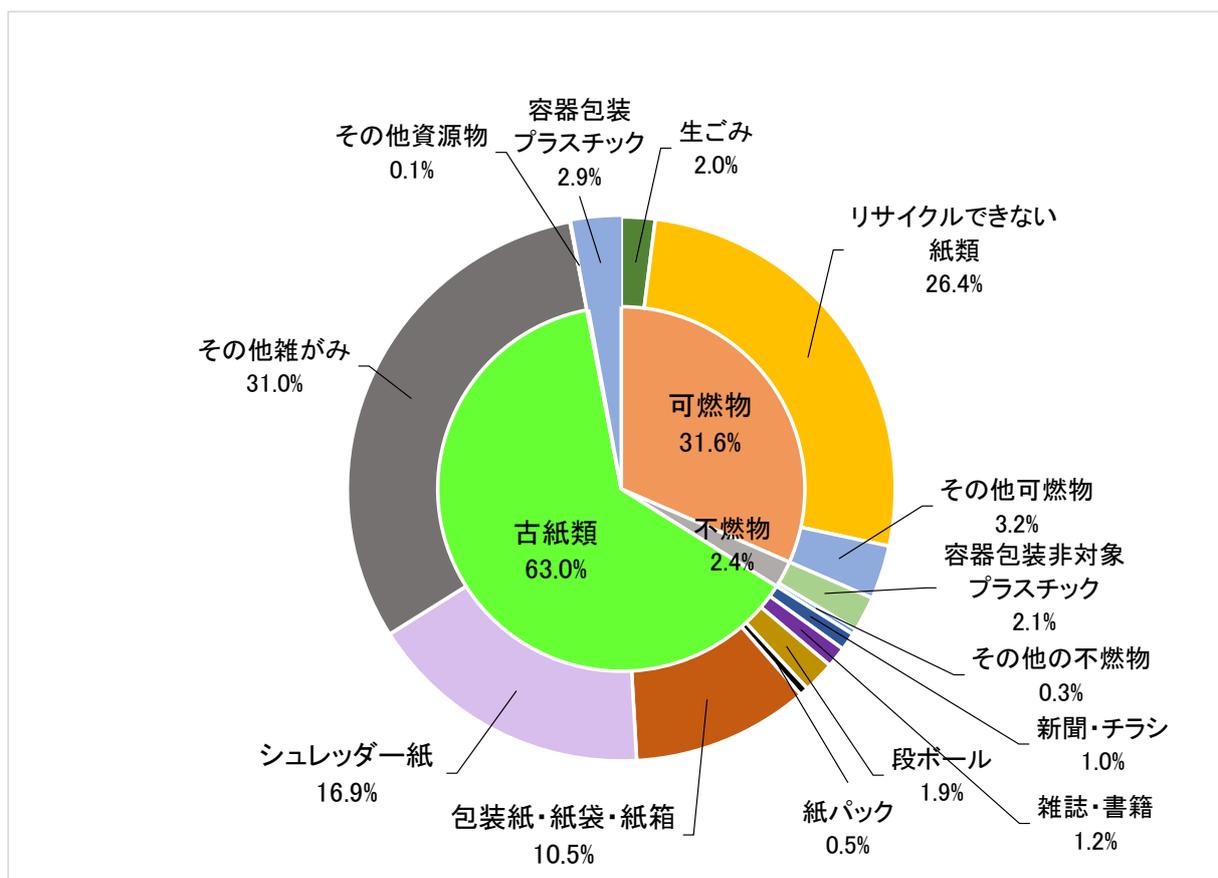


飲食系に含まれる生ごみ

## (2) 「オフィス系メイン」の可燃ごみ組成

- オフィス系メインの事業所では、可燃ごみとして正しく分別されている割合が 31.6%と低い水準となっています。可燃物の中身は、「リサイクルできない紙類」が 26.4%と最も多くなっています。
- リサイクル可能な古紙類が 63.0%と全体の 3 分の 2 近くを占めています。古紙類の内訳を見ると、「包装紙・紙袋・紙箱」10.5%、「シュレツダー紙」16.9%，そしてコピー用紙等の「その他雑がみ」が 31.0%などとなっています。

図 9 可燃ごみ組成（オフィス系メイン）



オフィス系に含まれる古紙